



地震がおこると火事も発生します。

おかあさんは家のすぐ近くにいて津波がおそってくるまでに時間があったため、ナオユキとサヤカを助けることができました。

しかし、もし子どもたちがすでに避難して、津波がくるまでに時間がなかったとしたらどうでしょう。家にもどったためにおかあさんだけ津波におそわれてしまったかもしれません。

「津波てんでんこ」という言葉があります。津波がおそってくるかもしれないときは、まず、ひとり一人がそれぞれに安全な場所へ避難することがなによりも大切だということです。それが一人でも多くの命を救うことにつながります。だれかを心配して家にもどったためにその人だけが津波におそわれてしまうこともあるからです。

おうちで話しあったことなどを書きましょう。



とじこめられた家にのこっていると、火事になっても逃げだすことができません。



ナオユキは窓から逃げられるかもしれなかったのに、サヤカのことを気づかってか、逃げようとしませんでした。

しかし、大津波警報がでていたので、二人とも津波におそわれるかもしれなかったのです。



ナオユキとサヤカは、おかあさんの帰りをじっと待っていました。

大声で外にいる人に助けを求めたり、ナオユキだけでも外に出て助けを求めるなど、もっともっと逃げ出すための努力をしなくてはなりません。



おかあさんは、ナオユキとサヤカが心配で家に帰ってきました。

# 地震についておさらいしましょう

～防災ナマズンが教えてくれたこと～

よんだ  
コーナーには  
☑を入れてね。

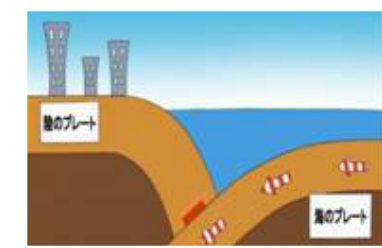
## とうかいじしん とうなんかいじしん なんかいじしん 東海地震・東南海地震・南海地震

愛知県をふくむこの地域では東海地震、東南海地震、南海地震という大きな地震が90年から150年おきにくりかえしおこっています。しかし、東海地震は1854年から150年以上もおこっていません。わたしたちは、大きな地震が「いつきてもおかしくない」ところに住んでいるのです。



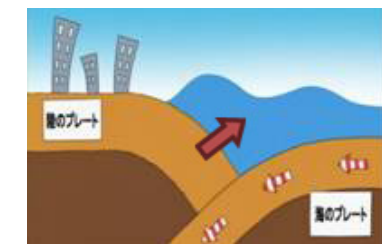
## じしん 地震ってどうしておこるの

地震にはわたしたちが住んでいる陸地の真下でおこる「内陸直下型」といわれるものと、海の深いところでおこる「海溝型」といわれるものがあります。いま、

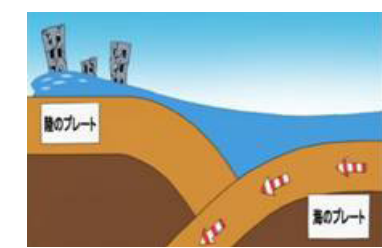


心配されている東海地震・東南海地震・南海地震は、「海溝型」の地震です。

海溝型の地震は、地球の表面を移動している「海のプレート」が少しずつ、「陸のプレート」の下にはいりこんでそれに引っぱられるようにできた「陸のプレート」のひずみのはね上がることでおこります。



こうして海で大きな地震がおこると、海から大量の水がものすごいスピードで何度も陸地におしよせます。これを津波といいます。



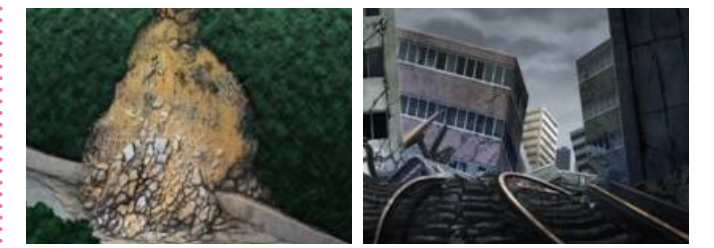
東日本大震災では、この津波のためにたくさんの人の命がうばわれました。

## 地震がおきたらどうなるの

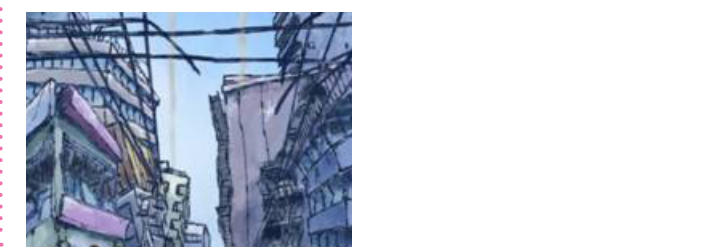
地震がおこるとものすごい揺れがおこります。家やビルなどの建物がくずれて、けがをしたり、死んでしまうこともあります。だから家を地震で倒れないようにしておくことはとても大切なことです。



道路や電車の線路が使えなくなってしまうと生活に必要なものが運ばなくなったり、家に帰れなくなることもあります。

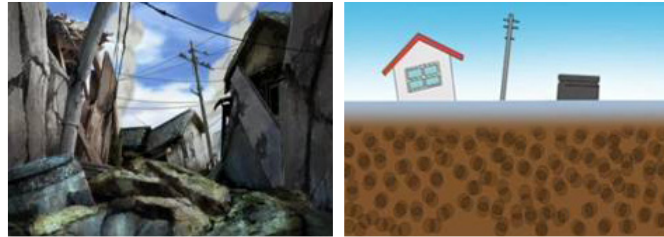


わたしたちの生活をささえているガスや電気、水道が止まってしまうこともあります。





えきじょうかげんしょう  
 液状化現象は、もともと海や池だったところを埋め立てた場所などでおこりやすい現象です。地震の揺れで、地面の下にある地下水などがもちあがってきて、地面が泥水のようにやわらかくなってしまふことをいいます。このため建物などが支えきれなくなり、傾いたり、倒れたりします。

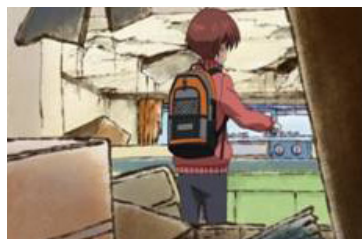


## 地震がきたらどうする？

地震がきたら、まず自分の身をまもることが大事です。たとえば、つくえやテーブルの下にかくれたり、カバンやクッションなどで頭をまもるようにしましょう。ドアは開かなくなってしまうかもしれないので、あけておくようにします。



ガスの元栓をしめるなど、火の始末をするのは地震の揺れがおさまってから。あわてるとかえってやけどをしてしまいます。



## 地震がくるまえにしておくこと

### 家族で防災会議



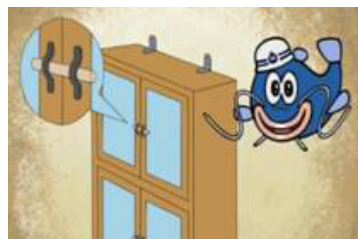
家族みんなで、地震がおきる前に何ができるか、地震がおきたらどうするかを話し合っておきましょう。地震はいつおこるかわかりません。寝ているとき、食事をしているとき、仕事や学校で家族がいないとき、学校の行き帰りなど、場所や時間を変えて、どこがあぶないか、どうすればよいか、よく話し合っておきましょう。住んでいるところの避難場所がどこかをたしかめるなど、家族が離ればなれになってしまったときに集まる安全な場所も決めておきましょう。

### 非常用品を備える



地震がくると食料が手に入りにくくなったり、水道や電気などが止まってしまうことがあります。3日分の水や食べもの、下着、救急用品、懐中電灯、小型のラジオなどを取り出しやすいところに備えておきましょう。

### 家具の転倒防止



家の中にあるいろいろな家具やテレビなどは、地震がおこると倒れたり、落ちてきたりしてとても危険です。家具の下敷きになってけがをしたり、出口をふさがれてしまうこともあります。専用の金具やベルトをつかって倒れないようにしておきましょう。

## 地震がおきたらあなたは どうしますか？

～ナオユキとサヤカの行動からまなびましょう～



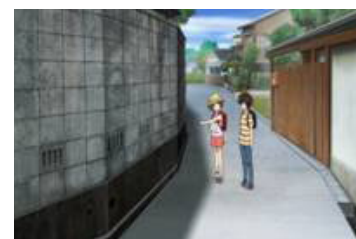
## 通学路のチェック



学校の行き帰りの道には、地震がおこると危険な場所がたくさんあります。みなさんの学校から家までの道をチェックしてみましょう。



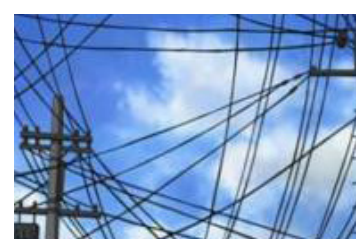
ビルの近くは窓ガラスが割れて落ちてくるかもしれません。



ブロック塀はくずれてくるかもしれません。



自動販売機など、倒れてきそうなものはありませんか。



電線は切れて、たれさがっているかもしれません。近づくと感電してしまいます。



海の近くは津波がくるかもしれません。

## 地震がおきたとき ナオユキとサヤカはどうしたでしょう



ナオユキたちは、テーブルの下にかくれました。まず自分の身を守ることが大切です。

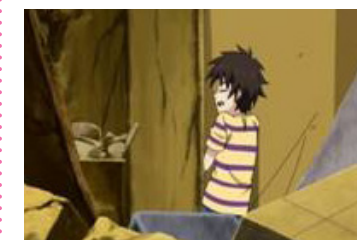
しかし、地震がきたとき倒れてしまう家に住んでいたとしたら、どうでしょう？

外に出たほうがよいかもしれません。外に出ると、屋根のかわらが落ちてきたり、ガラスが割れたり、塀が倒れてくることもあります。家にいるとき地震がきたらどうすれば一番いいのかわかりませんが、家族で話し合っておきましょう。



サヤカは、はだしだったので、割れたガラスで足を切ってしまいました。

地震のあとは窓ガラスや食器などが割れて部屋中にちらばっているかもしれません。とくに夜は停電で、真っ暗になってしまうこともあります。寝るときはスリッパを近くに用意しておくとういでしょう。足をけがすると逃げ出すことも大変になってしまいます。



ナオユキたちは、地震がきたとき部屋のドアをあけておきませんでした。

そのため地震でゆがんだドアはひらかなくなり、とじこめられてしまいました。